

2023年度 経営学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価	評価の理由/課題/根拠データ等
1. 志願者数の増加 KPI:志願者数1200人以上(昨年度実績:1158人) (1)2学科制導入の認知度向上 ①各学科の特色が表われるようHPを更改 ②SNSや動画共有サイトの活用 (2)高校へのアプローチ強化 ①優秀な学生を推薦する高校に推薦枠増設 ②地方(静岡、山梨、茨城等)の高校へのアプローチ (3)活躍する在学生や卒業生の活用(施策6と関連) ①OCでロールモデルとして登壇 ②HPで公開	結果:今年度出願者数796人(経コミ399人、マケデザ397人)(年内245人、一般551人) 参考:昨年度出願者数1,158人(経コミ614人、マケデザ544人)(年内238人、一般920人)	66%	KPIを大きく下回った。昨年度と比較すると、年内入試の出願者数は微増だが、一般入試の出願者数が大きく減少している。文科省によると私立大学の年内入試比率は58.7%で昨年度比1.3ポイント増である。また、少子化に伴い受験者数自体も減少している。このような外部環境の悪化が一般入試の出願者数減少の原因と推察する。	入試広報のデータ	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる 1)総合型選抜の選抜方法の見直し 2)高校へのアプローチ
2. 定員の充足 KPI:両学科とも定員130人を確保(昨年度実績:経コミ140人、マケデザ158人) (1)年内入試の割合引き上げ KPI:両学科とも95%以上(昨年度実績:経コミ78%、マケデザ98%)	結果:今年度入学者数274名(経コミ134人、マケデザ140人) 参考:昨年度入学者数298名(経コミ140人、マケデザ158人)	100%	KPIを達成した。年内入試比率は経コミ72.4%、マケデザ90.0%であった(昨年度実績:経コミ78%、マケデザ98%)。上記1で示した通り、一般入試での出願者数は減少傾向にあるため、来年度はさらに年内入試比率を上げる必要がある。	入試広報のデータ	1)総合型選抜の選抜方法の見直し 2)学部・学科の特色の広報、
3. 新カリへのスムーズな移行 KPI:トラブル0件(昨年度実績:数件) (1)非常勤講師との緊密なコミュニケーション (2)イベント対応の早期着手	結果:凶きなトラブル0件	95%	KPIを達成した。教務Gマネジャーの退職や新マネジャーの怪我など、トラブルの発生原因となり得る事案が発生したにも関わらず、主に職員の努力が奏功し、大きなトラブルにつながることはなかった。	教務グループからの報告	引き続き注視するが、PDCAの項目からは削除する。
4. 退学率の減少 KPI:3%(昨年度実績:3.5%) (1)初年次教育の一貫でロールモデルの卒業生を登壇させ、卒業後のイメージを喚起(施策6と関連) (2)3年次編入の受け入れ促進	結果:昨年度退学率5.5%(1年6.0%、2年9.0%、3年2.0%、4年4.5%) 参考:前年度退学率3.5%(1年2.7%、2年6.3%、3年1.6%、4年3.0%)	55%	KPIを大きく下回った。毎年の傾向として2年生3月の退学者が多い、この原因は留年制度(基準:取得単位数42単位未満)にあると思われる。今年度悪化の最大要因は1年生の退学者が多いためである。入学者数が299人と定員を大幅に越えて受け入れたことで、指導が行き届かなかったためと推察する。	教務グループ資料	留年制度の廃止も含め、包括的に検討する必要がある。
5. 実就職率の向上 KPI:実就職率90%以上(一昨年度実績:85.6%) (1)マケデザ専攻学生に重点的にキャリア指導 (2)就活早期化に対応しキャリア指導の前倒し (3)キャリア関連科目の新カリへのスムーズな移行	結果:昨年度実就職率88.2%	98%	求人需要が旺盛だったという外部環境の改善があったこと、就活早期化に対応しあらゆるイベントを早期化したことが奏功し、昨年度より向上したが、目標には至らなかった	キャリアセンター資料	男子学生の方が就職率が低い傾向にあるため、重点的に指導する。
6. 卒業生の活用 (1)卒業生DBの整備 (2)ホームカミングデーなどのイベント開催による、卒業生の大学への帰属意識醸成 (3)ロールモデルとなり得る卒業生の登壇等の活用	(1)未着手 (2)ゼミ単位でのホームカミングデー実施 (3)キャリアてっぺんフォーラムでの卒業生の登壇	50%	(1)学部単位での実施は困難と判明 (2)卒業生とのコミュニケーションはゼミごとに濃淡がある (3)継続実施		(1)全学的に対応するのに足並みを揃える (2)百周年イベントに合わせて推進 (2)継続実施 全学的な対応が必要のため、PDCAの項目からは削除する。
7. 研究活動の活性化 KPI1:科研費申請、共同研究、学長裁量経費の申請数の向上 KPI2:紀要の投稿数の増加 (1)研究日、長期休暇のスケジュール確保 (2)無駄な仕事の排除 (3)研究会の企画	KPI1: 科研費申請3件、採択2件 共同研究申請5件 学長裁量経費申請2件	70%	科研費は2023年度は申請5件、採択0件であったので、申請は減少だが採択は増加 共同研究と学長裁量経費については例年並み	総合研究所資料	2024年度採択された2件の代表者に、FDで採択された経緯やノウハウを話してもらう。

2024年度 経営学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1. 志願者数の増加 KPI:志願者数900人以上(昨年度実績:796人) (1)総合型選抜の選抜方法の見直し (2)高校へのアプローチ強化 ①優秀な学生を推薦する高校に推薦枠増設 ②地方(静岡、山梨、茨城等)の高校へのアプローチ
2. 定員の充足 KPI:両学科とも定員130人を確保(昨年度実績:経コミ134人、マケデザ140人) (1)年内入試の割合引き上げ KPI:両学科とも95%以上(昨年度実績:経コミ72.4%、マケデザ90%)
3. 退学率の減少 KPI:3%(昨年度実績:5.5%) (1)留年制度の廃止も含め包括的に検討
4. 実就職率の向上 KPI:実就職率92%以上(一昨年度実績:88.2%) (1)男子学生に重点的にキャリア指導 (2)就活早期化に対応しキャリア指導の前倒し (3)キャリア関連科目の新カリへのスムーズな移行
5. 研究活動の活性化 KPI1:科研費申請、共同研究、学長裁量経費の申請数の向上 KPI2:紀要の投稿数の増加 (1)研究日、長期休暇のスケジュール確保 (2)無駄な仕事の排除 (3)研究会の企画